あいさつ

研究によせて

飯能市教育委員会　教育長　今井　直己

美杉台小学校では「よりよく伸びようとする児童の育成～自己の生き方についての考えを深める授業展開を通して～」を主題として、道徳教育の研究を進めてきました。

小学校の道徳教育は「特別の教科　道徳」を要として本年度新たなスタートを切りました。本研究はまさに時宜を得たものと言えます。

研究にあたって、児童の実態を十分に把握することが重要であることは当然です。美杉台小学校では児童の実態把握に加え、保護者の願いも踏まえた上で研究主題と重点項目を設定しています。道徳科においても、学校と家庭・地域との連携を意識しており、本研究の大きな特徴と言えるでしょう。

また、研究を効果的に進めるためには、計画的、組織的な取り組みが欠かせません。本校では、校内を３つの部会に分けて研究を進め、設定した重点項目を全体計画に位置づけて授業を実践するなど、計画的、組織的な研究の工夫が行われています。

これらの実践により日々蓄積された成果がこの研究紀要です。美杉台小学校の今回の研究が、市内外の学校において道徳教育推進の指針となることを、願ってやみません。

結びに、山下眞一校長先生をはじめとした諸先生方のこれまでの真摯な研究への取り組みに敬意を表し、深く感謝を申し上げます。

あいさつ

飯能市立美杉台小学校　校長　山下　眞一

本日ここに研究の成果を発表できることを嬉しく思います。そして、ここまで全教職員で研究に取り組んで来られましたのも、熱心にご指導をいただきました飯能市立精明小学校 小野 加津美 校長先生、本日の公開授業のご指導並びにご講演をいただきます全国小学校道徳教育研究会第２７代会長 馬場 喜久雄 先生をはじめ、多くの皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

この研究は、「自分に自信をもって、正しいことを声に出したり、実行したりする意欲や力を伸ばしてほしい」という教職員の想いと「未来に向かって希望や勇気を持って、諦めない姿勢を身につけてほしい」という保護者の願いから始まりました。そして、「よりよく伸びようとする児童の育成」の研究テーマに行き着きました。具体的には、自己の生き方についての考えを深める道徳の授業展開の工夫と改善を進めてきました。その過程は、「特別の教科　道徳」についての理解を深めた２８年度。「美杉台小学校道徳の授業づくりの手引き」を整え、研究に見通しが持てた２９年度。そして、「主体的な学び・対話的な学び・深い学びの授業の姿がはっきりと見え、子供たちの変容が近づいた」３０年度、と言い表すことができます。

私たちの研究は、今日の研究発表を機に新たな段階に入ります。ご参会いただいた先生方にご意見、ご指導を賜ることで、本校研究の深化を図り、「よりよく伸びようとする児童の育成」を一層推進して参ります。今後とも更なるご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

結びに、飯能市教育研究会会長として、本校の道半ばの実践ではありますが、何か１つでも飯能市内の多くの学校において、道徳科の授業改善等の参考にしていただければ幸いに思います。

研究の概要

学校教育目標

のびよう　　なかよく　　たくましく

本校の重点項目

A　主として自分自身に関すること
1　善悪の判断、自律、自由と責任
5　希望と勇気、努力と強い意志

目指す学校像

児童にも、保護者にも、地域の方にも、
教職員にも魅力のある学校

研究主題

「よりよく伸びようとする児童の育成」
～自己の生き方についての考えを深める授業展開を通して～

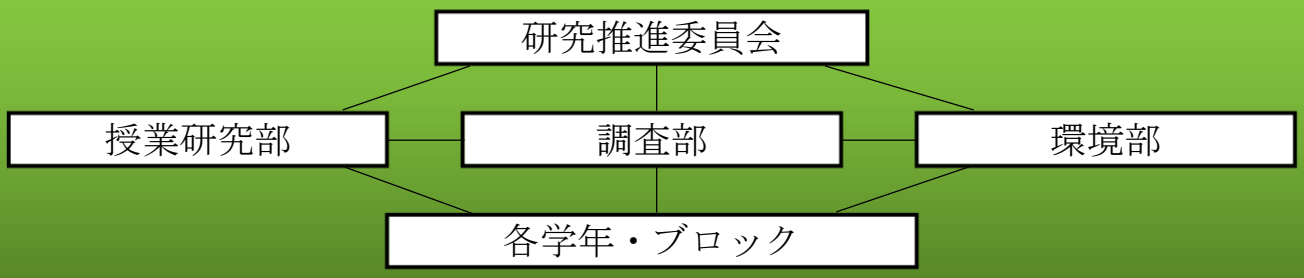
研究仮説

仮説１　自分自身のこととして捉えられるような発問を工夫すれば、自己の生き方についての考えを深めることができるだろう。
◎教材研究シート・発問研究シートによる教材研究の改善

仮説２　「ともに考え、話し合う」活動を設定すれば、自己の生き方についての考えを深めることができるだろう。
◎効果的な話し合いの工夫・場の設定の工夫・発問の工夫

仮説３　自分や友だちの良さに気づくことができる環境を整えることで、自己の生き方についての考えを深めることができるだろう。
◎月目標についての実践場面の設定、検証

研究組織



授業研究部

◎　重点項目に沿った授業計画

保護者アンケート、児童アンケートを考察し、本校の重点項目を以下の二つに決めた。

【Ａ　善悪の判断、自律、自由と責任】　【Ａ　希望と勇気、努力と強い意志】

各学期にどちらか一つ以上を行うように授業計画を行った。

◎　道徳科指導要領内容項目の捉え方

第６学年の「修学旅行の夜（東京書籍）」では、「Ａ主として自分自身に関すること」「自由と責任」→「自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること」が目標とされている。この目標の全てを一時間で指導するのではなく、５・６学年の２学年間で児童の実態等を考慮し、段階的に指導することを学んだ。

例えば、今回の授業では「自由を大切にし」の部分に重点を置き、授業を計画した。

ここから更に指導要領解説の「～自由と自分勝手の違いや、自由だからこそできることやそのよさを考えたりして、自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感できるようにすることが大切である。」の「自由のよさ」を考えさせる授業展開を計画した（第６学年指導案参照）。この価値の捉えによって、指導観を明確にするとともに、より児童の実態に合った指導を行えるように、指導要領の捉え方についての研究を深めた。

◎ねらいに迫るための工夫１　「教材研究シート」

例「第６学年の「修学旅行の夜（東京書籍）」

教材研究シートを使い授業計画を進めます。児童の実態を重視した計画を立てるために、内容項目に関わる児童の実態・傾向を捉えた上で目指す児童の実態を考えました。

保護者の願いは年度当初にアンケートから実態を捉えました。美杉台小の保護者の願いと児童の実態から授業を計画することによって、より児童の実態に合った展開にできます。

この教材研究シートを基盤として、授業を立てることによって、ねらいを焦点化していきます。

《教材研究シート》　Ｎｏ．１４

①第６学年の重点項目　自律、自由と責任

②　資料名　【　修学旅行の夜　】
主題名　【　自由と責任について考える　】

③<内容項目に関わる児童の実態・傾向>

・自由を主張することが多いが、その内容は自分勝手にしたいという行動が多い。
・みんなの自由を尊重するよりも、自分の自由を尊重し、責任を果たすところまでは至っていない。
・大多数の意見に流されてしまうことが多い。間違っている場合でも、それを多くの児童は主張しない。

④<目指す児童像>

・自分たちで自由の意味について考える児童になってほしい。
・自由を大切にするとともに、みんなの自由についても考えられる児童になってほしい。
・自由に伴う、自分たちが果たすべき責任についても考えを深めていってほしい。
・自由とは責任ばかりがあるのではなく、自分たちが得られる自由について考えさせたい。

⑤<保護者・教師の願い>

・自分たちが主体的に自由を大切にし、自由の意味と責任を考えられる児童になってほしい。
・自由を大切にしてほしいが、その責任についても考えを深めてほしい。

一部抜粋

《発問研究シート》（自己の生き方についての考えを深めるための発問シート）

展開

自分の考えをもつ場面
【　のぼるにおれた下敷きを押し付けられたところ　】
発問：あのときの「ぼく」はどんな気持ちだったのだろう。
・ぼくじゃないのに。
・こわい…。
・だれか、たすけて。

自己を見つめ直す場面

○「ともに考え、話し合う」活動で自己の生き方について考えを深められるような発問
主発問：（ひろし、きみはなにもやっていないんだぞ。ものさしをもどすんだ。）とさけんだ「ぼく」はどんなことを考えているのだろう。

補助発問：

期待する児童の反応・変容の様子・思考過程
・「ぼく」は心の弱い部分と強い部分を繰り返しながら、次第に正しいことを行おうとする気持ちが高まり、その気持ちの方が勝ったことを捉える。

中心場面
【　「ぼく」がおれたものさしをのぼるに突き返したところ　】
○自分自身のこととして捉えられるような発問
主発問：あのときは何もできなかったのに、何で「ぼく」はわたせたのだろう。
・やっぱりいけないことだと思ったから。
・勇気をもったから。
・弱い自分のままではだめだと思ったから。
助発問：「ぼく」はどんな気持ちでさけんだのだろう。
・のぼるがゆるせない。
・ごまかすのはだめ。

期待する児童の反応・変容の様子・思考過程
・だめなものはだめであると捉えられる。
・正しいことをすると心が晴れやかになることを捉える。

一部抜粋

◎ねらいに迫るための工夫２　「発問研究シート」

第２学年「おれたものさし（東京書籍）」

発問研究シートでより価値についてより深く考えさせる発問を精選します。

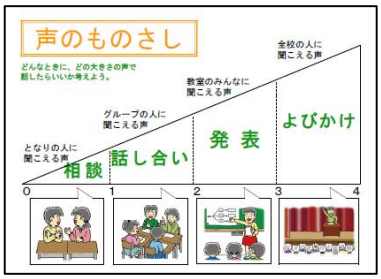
最初に中心場面で価値に迫る発問を考えます。交流が浅かった場合には、考えを深めるための補助発問を用意しておきます。補助発問でも深まりが浅い場合には児童に問い返しをして価値に迫らせます。

中心発問を深めるために必要な考えをもつ場面が自己を見つめ直す場面です。そして自己を見つめ直すために必要な発問が自分の考えをもつ場面になります。このように中心場面を深めるために必要な思考の道筋を考えることでより価値が深められると考えました。この発問研究シートを使い、価値に迫る発問を精選しました。

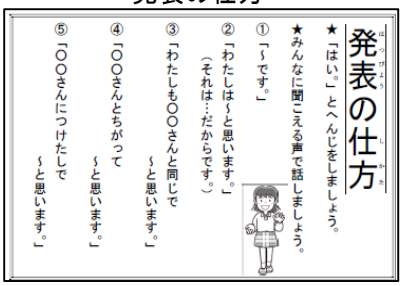
調査部

●掲示物の作成　各学級に掲示し、話し方・聞き方を常に意識して学習活動を行う。

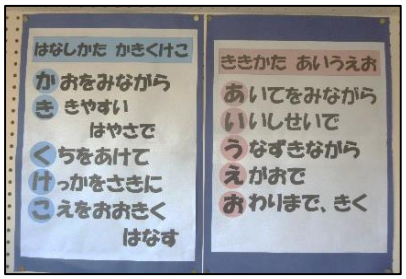
声のものさし



発表の仕方



話し方かきくけこ　聞き方あいうえお



●「道徳コーナー」の掲載（学年便り）　道徳コーナーを通して、家庭との連携を図る。

3年生　6月号より

道徳コーナー

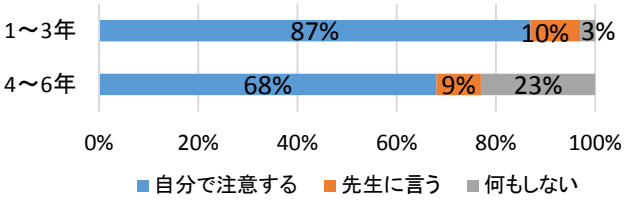
「ヌチヌグスージ」では、「命の大切さ」について考え、「生命は自分一人だけのものではなく，数え切れないほどの祖先から受け継がれてきたもの」であることに気づきました。

「子どもたち一人一人がほかに代わる人のいない大切な存在である」ということをご家庭でもお話しいただければと思います。

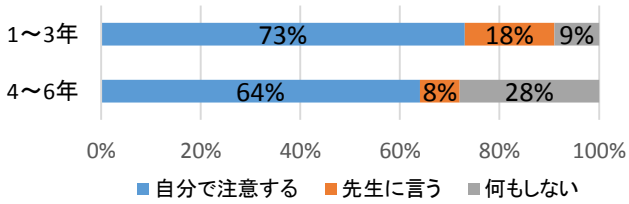
●重点項目に関するアンケート調査の実施

①廊下を走っている人を見ました。あなたはどうしますか。

〈29 年度〉



〈30 年度〉

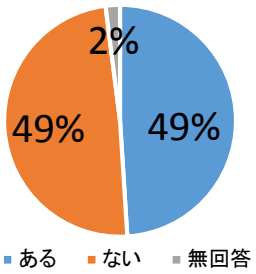


〈考察〉低学年では「よいことは進んで行おう」という意識が強く、「自分で注意する」が圧倒的に多い。高学年では「自分で注意する」が減り、「何もしない」が3割近く出てきている。廊下を走ることは悪いことであると理解はしているが、日常生活での実践にはまだつながっていない。心を耕し、実践的な態度を養っていくことが今後の課題である。

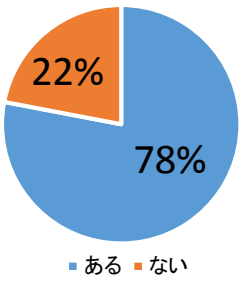
④なりたい自分になるために努力していることはありますか。

〈29 年度〉

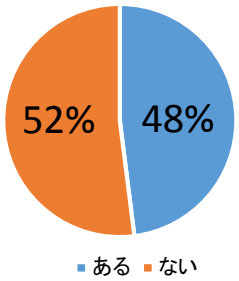
（4 年）



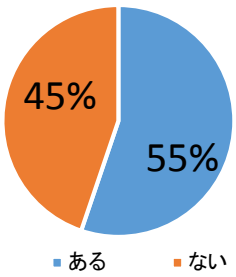
（5 年）

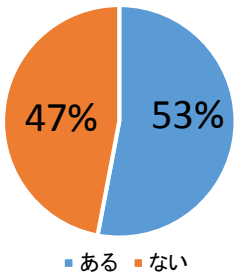


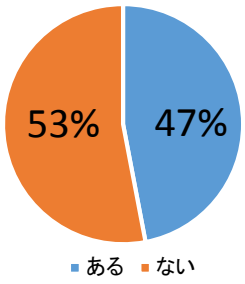
（6 年）



〈30 年度〉







〈考察〉どの学年も「なりたい自分」になるために約半数の児童が努力している。努力の内容は、習い事やスポーツ少年団での活動が挙げられる。一方で、まだ「なりたい自分」をイメージできない児童も多く見られる。児童が自分自身と対話し、夢や希望、強い意志を持てるようにしていきたい。

環境部の目指すもの

絆を強くつなぐ。

学校生活や個人の学習・生活の月めあてを立て、達成者を掲示や道徳タイム内で表彰して、児童同士が良さに気づき絆を強める環境を整えました。また、各学年でも学校行事で友達の良さに気づくための掲示物をつくりました。

道徳ノートでは、道徳科の授業で自分を振り返ったり、学校行事や学校生活、さらには家庭・地域や社会での自分を記録します。道徳ノートは、学校・家庭・地域・社会と児童の絆を強くつなぐことを期待しています。

道徳教育

運動会　国語　オリエンテーリング　給食　行進　社会　生活
６送会　挨拶・返事　算数　朝マラソン　わくわくランド
理科　仲良し音楽会　清掃　体育　書写・・・

自分や友達の良さを気づくことができる掲示物
道徳タイム

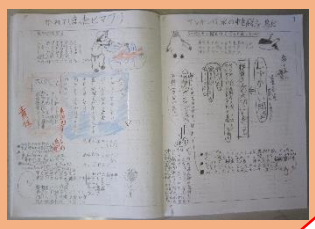
授業を支える。

道徳科
授業

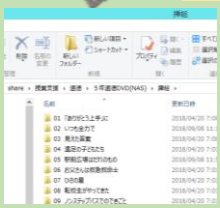
道徳科の授業の教材(年間35時間分)をサーバと教室近くに準備しました。授業実施後には、板書写真や指導案などを保存・継承して指導の充実を目指しています。

自分を振り返る

今まで・・・
そしてこれから・・・



道徳ノート



教材バック・フォルダ

研究の成果と課題

【仮説１について】

〇教材研究シートを活用し教材を分析・研究することで、各学年で共通理解が図られ、明確な指導観を持って授業に臨むことができた。
〇発問研究シートを活用し自分の考えをもたせる発問や自分自身のこととして捉えられるような発問を工夫することで、児童が自分自身の関わりや経験、考えに基づいた発言を引き出すことができた。
〇自己の生き方についての考えを深められるような効果的な発問であるかどうか発問研究シートの改良も行いさらに研究を重ねていく必要がある。

【仮説２について】

〇ペアや３人グループで話し合いを行い、考えを交流することで、多様な価値観に触れ自分の考えを深めることができた。
〇必要に応じてコの字型の座席配置にして友達の意見を聴きやすくすることで、活発な話し合いができた。また、教師がファシリテーターとしての役割を果たしながら話し合いを行うことができた。
〇児童同士の話し合いからさらに自分の考えを深めるためには、どのような発問や展開が必要か研究を重ねる必要がある。

【仮説３について】

〇月目標に対して自分のめあてを達成できた児童を毎月表彰し、写真を掲示することで、自分や友だちの良さに気づき、さらに良くなろうとする姿勢が見られた。
〇掲示物による道徳科教育の視覚化、学校便り・学年便り等で家庭への道徳科教育のお知らせを行うことで、職員の意識が高まり、また、家庭へ学校の道徳教育の姿勢を示すことができた。
〇今後も、よりよく伸びようとする児童を育成するために、さらに研究を重ね環境を整える必要がある。